

普及活動情勢報告（平成 29 年 10 月分）

中央東農業振興センター嶺北農業改良普及所

栽培管理を徹底しよう～JA カラーピーマン部会現地検討会～



現地検討会の状況

9 月 22 日、JA 土佐れいほくカラーピーマン部会は、本山町で現地検討会を開催し、16 人の生産者が参加しました。

普及所では、これからの管理としてハウス内の保温や晴天時の換気、病害防除等を説明しました。参加者は、ハウス天窓やサイドの開閉による温度管理について情報交換し、保温による温度の確保と換気による病害予防の重要性が理解されました。

普及所は、適期の栽培管理を徹底するため、JA と連携して部会活動を支援していきます。

ブランド米「土佐天空の郷」の高品質安定生産にむけて！ ～エコファーマー更新者の個別面談～



個別面談の様子

9 月 27 日、普及所で本山町特産品ブランド化推進協議会「土佐天空の郷」の生産者 2 人に対して、エコファーマーの更新にむけた個別面談を実施しました。

「土佐天空の郷」生産者は、全員エコファーマーを取得しており、農薬や化学肥料を控えた特別栽培米に取り組んでいます。

普及所は、収量・面積目標、新たにに取り組む技術（冬期耕耘による機械除草）を設定し、計画の作成を支援しました。

生産者からは、「今後も品質向上を目指して努力したい」と意欲的な発言がありました。

普及所では、今後本山町のブランド米「土佐天空の郷」の更なる品質向上を目指し、栽培技術指導を徹底していきます。

新嘗祭献穀田の抜穂式が行われました



献穀者と刈女が収穫中

10 月 5 日、本山町下津野の川村隆重氏のほ場で、普及所、JA 土佐れいほく、本山町役場など多数が参加して、献穀田の抜穂式が開催されました。

神官により神事が執り行われた後、献穀者を含む 10 名が鎌を使って手刈りで収穫しました。

普及所は施肥等の栽培管理を指導しました。

献穀者は、「今までで最高の出来で満足」と話され、無事に収穫できたことに安堵していました。

今後、10 月 26 日の献納に向けて、関係機関と協力して精米の選別を実施します。

地元の郷土料理を学ぶ！！ ～おおとよ小学校での郷土料理伝承講習会～



真剣に食材を切る小学生

10月5日、大豊地区農漁村女性グループ研究会が大豊町立おおとよ小学校で小学5年生14人を対象に、郷土料理伝承講習会を行いました。

児童は4班に分かれ、グループ員4人の指導のもと「銀不老寿司」「こんちん」「ぜんまいの油炒め」など古くから伝わる郷土料理と一緒に作り、作り方のポイントを学びました。

普及所は食材使用量の算出とレシピ作成を支援しました。

児童からは、「自分で作った料理は美味しかった」「こんちんが一番好き」などの声が聞かれました。

普及所は、今後も郷土料理の継承につながる活動を支援していきます。

「土佐甘とう」の視察研修



土佐甘とうの栽培状況

10月6日、JA土佐れいほく営農指導員2人、普及所3人はJA津野山で産地化されている甘長とうがらし「土佐甘とう」を視察しました。

嶺北地域のシントウとカラーピーマンでは、出荷調整作業の労力不足や収量の伸び悩みが課題となっています。

JA津野山の「土佐甘とう」は雨よけハウスと露地の有望品目として、生産者数、平均収量が年々増加しています。

参加者からは、「平成31年1月のJA合併にむけて不透明な要素があるが、「土佐甘とう」を導入するには集出荷体制を整える必要がある」などの声が聞かれました。

普及所では今回の視察研修を企画しましたが、農家所得の向上にむけて有益な情報を提供します。

出荷場版GAPの点検～消費者から選ばれる産地となるために～



GAP取組状況を確認

10月10日にJA土佐れいほく大田口と本所集出荷場で、園芸連の職員2人、JA職員3人、普及所3人が出荷場版GAPの取組状況を確認しました。

JA土佐れいほくでは異物混入や腐敗事故の発生を未然に防ぐため、4月から出荷場版GAPに取り組んでいます。

普及所は関係者とともに整理整頓、予冷庫の温度管理、作業員の労働環境等が適切かどうか等を確認し、改善点があれば指導しました。点検の結果、殆どの項目で適正に管理されていることがわかりました。

今後、11月のユズの出荷時期に再度確認することになり、普及所では消費者から選ばれる産地となるよう、改善を進める取組を支援していきます。

「土佐の豊穰祭」で嶺北の野菜・花きをPR



熱心に花を生ける参加者

関係機関で構成する嶺北地域農林業振興連絡協議会農業部会（以下、農業部会）とJA土佐れいほく園芸部は、10月15日に大豊町で開催された「土佐の豊穰祭」で消費拡大PRや営農・就農相談を行いました。

農業部会では地域野菜をふんだんに使った料理の販売や野菜の早積み大会、フラワーアレンジメント教室で嶺北の野菜や花をPRしました。普及所はイベントの企画や運営を支援しました。

フラワーアレンジメント教室の参加者は、花き農家からアドバイスを受け、工夫を凝らし花を生けました。

普及所は、今後もこうしたイベントを通じた地元農産物のPRや農業を身近に感じてもらえるような活動を支援してきます。

ユズの青果出荷が始まりました～柚子部会出荷検討会～



出荷検討会の様子

10月16日に、JA土佐れいほく大田口出荷場で園芸部柚子部会の出荷検討会が行われました。

参加者は10人で、持ち寄った果実を規格表と見比べながら、出荷規格を確認しました。

本年度は着果量が少なく、また果皮の陥没やキズなどの果皮障害が多く見られるため、普及所からその原因と対策について指導しました。

生産者からは、規格落ちの主な要因となる果皮障害に質問が集中したので、最新の研究データや先進事例を収集・分析し、再度1月の反省会で情報提供する予定です。

○JTで熱血指導～新任者が水稻の収量調査方法を学ぶ～



一言も聞き漏らさない姿勢で
真剣に学ぶ新任者

10月19日、新任者の能力向上を図るため、普及所で作物部門担当職員が水稻の収穫後の収量調査方法を一対一で新任者に指導しました。

担当者からじかに調査方法を学ぶことで、新任者からは「質問しやすく、丁寧に教えてもらい、大変良く理解できた。早速実践してみたい」との声があり、早速OJTの効果が出始めています。

普及所全体の職場の若返りが進み、新任者の育成が急務の課題となっていますが、今後も普及職員全員で、早期に農家の信頼を得る普及員になれるよう育成していきます。

夏秋ミニトマトで緑肥(ライムギ)の実証試験を開始



ライムギの発芽状態

管内の有機栽培ミニトマト農家で、緑肥(ライムギ)栽培の実証試験を開始しました。

ライムギは有機物投入の他、土壌物理性の改善や土壌病害の発生を抑制する効果が期待できます。播種時期が11月以降では、翌春までに十分な生育が期待できないことから、ミニトマトの栽培期間中の10月に実施しました。

実証農家ではこの他、加温機の導入による作期延長、裂果及びすすかび病対策についても実証する予定です。

普及所ではミニトマトの生産安定にむけて実証ほの設置を支援しましたが、今後調査結果を取りまとめ、効果を検証します。